

小屋がつぶされようと、心のクイは不動

勝利の年90年人



二期工区内を望々とデモ行進 (12/17)

米帝は、パナマに対する侵略をただちにやめろ!

一月一七日、反対同盟の要請に基づく現地集会在が天神峰の現地闘争本部で開かれ、動労千葉からは四五名が参加してきた。闘争会館には真紅の旗がひるがえり、その下では権力の暴力に屈せず、不屈に闘いつづける反対同盟農民の明るい笑声・会話が交わされている。

まさに婦人行動隊の郡司さんが言っていた「小屋がつぶされようと、心のクイは不動」という通りに、三里塚魂はますます盛んに燃えていたのである。今回の集会は、今までとは趣を変え、闘争会館内での集会である。一階から屋上まで参加者

でビッシリ、外にもあふれ出ている中で、反対同盟・弁護団・住民団体・各支援からの決意表明を受けた。

その中で、ひととき大きな拍手を受けて、田中書記長が紹介され、力強くストの報告と九十年春に向けての決意表明を行った。又、東峰団結小屋を三日間にわたって決死で防衛し闘った五人の仲間には、万雷の拍手が送られた。

三里塚は、今「熱い」冬を迎えている。機動隊の暴力にもひるまず、「話し合い」―屈服路線をキツパリ拒否し、反権力・闘う住民運動の拠点としての誇りにかけ闘いつづけているのである。

参加者は、この三里塚の闘魂にふれ、決意も新たに帰路についた。われわれは労農連帯を強め、九十年に勝利するという決意を固めてきたのである。

反合・三里塚の闘いは、車の両輪であり不変の闘いである。

12 / 13

佐倉支部大会開始

負物ストで斗うぞ!

佐倉支部定期大会は十二月十三日午後五時三十分より、佐倉市内で動労千葉本部中野委員長、田中書記長の参加のもと開催された。

司会を山本特別執行委員が行い、議長に能勢氏を選出して、大会は行われた。

本部中野委員長は、十二・五ストライキの闘いの報告、意義を強調し、「清算事業団闘争勝利に向けた闘いは、第一歩をふみだしたにすぎない」「本当の闘いはこれからだ、全員一緒にたつて闘おう」と訴えられた。

執行部からの経過報告、会計報告ののち、若干の質問があり、新役員を選出して、十九時終了した。佐倉支部も、動労千葉の一員として、九〇・三ダイ改阻止、清算事業団闘争勝利に向かって、ストライキで立ち上がる事を最後に決意表明します。

新たに選出された役員

- 支部長 宮内 正志
- 副支部長 田中 龍美
- 書記長 清水 匠
- 執行委員 細谷 茂雄
- 〃 笠井 清